

据 付 点 検 要 領 書

型式：08CV-Y2

エアコンを据え付ける前にこの据付点検要領書をよくお読みのうえ、エアコンを正しく据え付けてください。

お願い：この書類は次の工事をされる方へ必ず引き継いでお客様に保管していただけてください。
(搬入据付工事)→(ドレン配管工事)→(電気配線工事)→(試運転)→(お客様)

- リモコンについてはリモコン付属の据付点検要領書を参照してください。
- オプション部品についてはオプション部品付属の据付点検要領書を参照してください。

目次

安全のために必ずお守りください	1	配線接続口	12
1. 据え付けの前に	3	ベアリモコンとの接続について	12
搬入について	3	リモコン据付工事	13
付属品・現地準備品の確認	3		
2. 据付場所の選定	3	6. 試運転	14
3. 据付工事	5	試運転前に	14
4. ドレン配管工事	7	ディップスイッチの設定について	15
5. 配線工事	10	多機能リモコンの設定について	15
配線容量	10	試運転	17
配線接続位置	11	引き渡し	19

はじめに

- この製品は国内向け一般用除湿機です。
- 木材・薬品などの特殊雰囲気（腐食性や可燃性のあるもの）や、熱交換器の目づまりを発生させる塵埃が多量にある雰囲気では使用できません。
- 食品・動植物・美術品の除湿、乾燥には対象物に適したそれぞれの除湿手順・乾燥手順および条件を確認したうえでご使用ください。
- 次のような場所への設置はしないでください。多くの場合ユニットが故障する原因になります。
 - 油（機械油含む）や粉末などの飛沫・蒸気の多い場所
 - 海岸地帯などの塩分の多い場所
 - 温泉地など硫化ガスの多い場所
 - 酸性またはアルカリ性の雰囲気のある場所
 - 可燃性ガスの発生・流入などの恐れがある場所
- プラスチック製品成形機などで使用される離型用シリコンガスなどが浮遊する場所への設置はしないでください。シリコンガスなどが熱交換器フィン表面に付着すると、フィン表面が撥水状態になりドレン水がドレンパン外に飛散し水漏れの原因になったり、飛散した水分が電気品箱内に浸入し電気品が破損する原因になります。
- 電磁波を発生する医療機器などを使用するときは、ユニットの誤作動に注意してください。電磁波の発信面を、ユニットの電気品箱に直接向かない位置に据え付けてください。
 - 電磁波の空中伝播の影響を避けるため、電磁波を発信する機器やラジオなどはユニットより少なくとも3m以上離してください。



安全のために必ずお守りください

- ご使用の前にこの「安全のために必ずお守りください」をよくお読みのうえ、据え付けてください。
- ここに示した注意事項は「△警告」「△注意」に区分していますが、誤った据え付けをした時に、死亡や重傷などの重大な結果に結び付く可能性が大きいものを特に「△警告」の欄にまとめて掲載しています。しかし、「△注意」の欄に掲載した事項も、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を掲載していますので、必ずお守りください。
- 据付工事完了後、試運転を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそってお客様に使用方法、お手入れの方法を説明してください。また、この据付点検要領書は取扱説明書とともにお客様で保管いただくように依頼してください。なお、製品がお客様のご要求により特別な仕様となっている場合には、標準製品との違いを取扱説明書などを使用して十分説明してください。

【記号の意味】

- △警告**：作業を誤ると、使用者が死亡や重傷を負う可能性が想定できる場合を示します。
- △注意**：作業を誤ると、使用者が傷害を負う可能性または物的障害の発生が想定できる場合を示します。
- !**：強制事項を示します。特定しない一般的な使用者の行為を指示する表示です。
- ：禁止事項を示します。
- 留意事項：警告、注意以外の注記事項を示します。

据え付けについて

- 据付工事はこの据付点検要領書に従って確実に行ってください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をして据え付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・室内ユニット落下によるケガの原因になります。 **!**
- 据え付けはユニットの質量に十分耐える場所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合は、ユニットの落下によるケガの原因になります。 **!**
- 可燃性ガスの発生や流入などの恐れがある場所には据え付けしないでください。発火や火災の原因になります。 **○**
- ユニットのの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下によるケガの原因になります。 **○**
- 小部屋へ据え付ける場合は、万一、冷媒が漏れても限界濃度を超えないように対策してください。限界濃度を超えない対策については、販売店と相談してください。万一、冷媒が室内に漏れた場合、その濃度が許容値を超えるような小部屋では窒息などの危険があり、許容値を超えない対策が必要です。 **!**
- 冷媒を取り扱う場合には、必ず革手袋を着用してください。万一、冷媒が直接手などに掛かると凍傷を負う原因になります。 **!**
- 本機は不燃性の冷媒 R410A 専用機です。据え付け・修理・移設の際は、冷媒 R410A 以外の物質は混入させないでください。他の冷媒・空気・酸素・プロパンやアルコールなどの可燃性物質が混入しますと、爆発・火災・ケガの原因になります。 **○**

据え付けについて

警告	● 修理の際は、圧縮機を停止してから冷媒配管を取り外してください。冷媒配管が取り付けられておらず、開放状態で圧縮機を運転すると空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧となり爆発・火災・ケガなどの原因になります。	!
	● 室内ユニットドレン配管は、腐食性ガスなどが発生する排水溝に直接いれしないでください。室内に有毒ガスが流入し、中毒などの原因になります。	!
	● 油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液などを頻繁に使うところで使用しないでください。腐食による冷媒漏れ・感電・著しい性能の低下・故障・火災の原因になります。	!
	● 圧力スイッチなどの保護装置を改造（短絡など）して運転をしないでください。改造して運転を行った場合、発煙・火災・破裂の原因になります。	!
	● 気密試験および配管ろう付け時のガスブローには、必ず窒素ガスを使用してください。誤って酸素ガス・アセチレンガス・フルオロカーボンなどのガスを使用すると、爆発および中毒の原因になります。	!
	● 配管ろう付け時のガスブローには必ず窒素ガスを使用してください。誤って酸素ガス・炭酸ガス・フロンガスなどを使用すると、爆発や中毒の原因になります。	!
	● 配管ろう付け時のガスブローには必ず減圧弁を使用してガス圧を 0.02MPa 程度に調整してください。ガス圧が高すぎると、爆発の原因になります。	!
	● ろう付け作業前には必ず周囲の可燃物を排除してから、ろう付け作業を実施してください。火災の原因になります。	!
注意	● 密閉した場所での作業は、酸欠の恐れがありますので、十分な換気をしながら実施してください。また、洗浄液は、火気に触れるなど高温状態となりますと、有毒ガスが発生する原因になります。	!
	● 室内ユニット本体の据え付けは逆勾配（ドレン配管接続側と反対側への勾配）をつけないでください。水漏れの原因になることがあります。	!
	● ドレン配管は確実に排水するように配管してください。不確実な場合は屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。	!
	● 人力による製品の運搬は、一人で行わないでください。重量物を一人で扱うとケガの原因になることがあります。製品によっては PP バンドによる梱包を行っていますが、危険ですので運搬の手段に使用しないでください。	!
	● 熱交換器フィン表面に素手で触れないでください。切傷する原因になることがあります。	!
	● 本ユニットは塵埃の少ない屋内専用です。防塵・防水構造ではありませんので屋内に設置してください。屋内設置が守られない場合は重大な事故の原因になることがあります。	!
	● 複数台の除湿機を共通ダクトで施工することはできるかぎり避けてください。やむを得ず複数台の除湿機を共通ダクトで施工する場合は、送風機を連動させて運転するようにしてください。1 台でも送風機が停止していますと除湿効果が悪くなり、最悪の場合、圧縮機が故障する原因になることがあります。	!
	● カバー・パネルの開閉、フィルターの取り付けおよび取り外し時は、手でしっかり保持してください。落下や傷害の原因になることがあります。	!
	● 付属のドレンホースを曲げたり、ねじったりして使用しないでください。水漏れの原因になることがあります。	!
	● ドレン配管接続口には過大な力を加えないでください。破損する原因になることがあります。	!
	● ドレン配管は逆勾配（上り勾配）の部分や立ち上がり部を作らないでください。機械が停止したとき水が逆流し、水漏れの原因になることがあります。	!
	● ドレン配管は他の汚水・排水系統と直結しないで別配管にしてください。熱交換器の腐食や異臭の原因になることがあります。	!

電気工事について

警告	● 電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。	!
	● 電気工事は「電気設備に関する技術基準」「内線規程（JEAC 8001）（最新のもの）」およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。	!
	● 配線は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。	!
	● 電源配線は、より線を使用せず、単線を使用して確実に接続して固定してください。より線を使用したり、接続や固定が不安定な場合、故障や発熱・発火の原因になります。	!
	● 電源配線は、途中で接続しないでください。接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。	!
	● 単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不良により故障や発熱・火災の原因になります。	!
	● 端子台への配線接続後は、必ずケーブルクランプおよびコードトメで結束してください。また、配線は配線通し口内に確実に収納してください。実行しないと配線噛みにより発火事故の原因になります。	!
	● 配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。	!
	● 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。	!
	● 漏電遮断器を必ず設置してください。法規（電気設備に関する技術基準を定める省令）により設置が定められています。設置しないと地絡により火災や感電の原因になります。	!
	● 現地配線施工時は、ネズミなどの小動物に現地配線がかじられることのないよう配慮し施工してください。配線がかじられると火災の原因になります。	!
	● 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。大きなヒューズや針金などを使用すると発熱の原因になります。	!
注意	● アースの接続は D 種接地工事（電源電圧 300V 以下）により電気工事士の方が行ってください。室内ユニットのアースを取り付けないと、感電など思わぬ事故につながります。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。	!
	● 電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に切ってから行ってください。感電の原因になります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により「運転」スイッチを押さなくても運転することがあるため、電源を切らずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。	!
	● サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみ込まないように注意してください。感電や火災の原因になります。	!
	● プリント基板のスイッチを操作する場合は、他の電気品に絶対触れないでください。感電の原因になります。	!
	● サービスコネクタを取り扱う際は、必ず電源を切ってから作業を行ってください。感電の原因になります。	!
	● 残留電圧で感電する恐れがあります。	!
	● 電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。■ 電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。	!
	● 除湿機の電源を、大量の電力を使用する機器（リフト・コンテナクレーン・電鉄用整流器・インバーター電源装置・アーク炉・電気炉・大型の誘導電動機・大型の開閉器など）と同一の電源トランスから配電する場合や大量の電力を使用する機器の電源線と除湿機の電源線同士が近接している場合は、機器の消費電力の急激な変動や、開閉器の作動により、極稀に除湿機の電源線に誘導サージ電圧が発生し、除湿機が正常に運転されない場合が発生する恐れがあります。事前に現地での電源状況を把握され、当該の恐れのある場合は、除湿機に接続する電源線へのサージの重量を防止（電源線の接続元の変更・配線引回し方法の見直し・サージ抑制機器の取り付けなど）してください。	!

□はチェック用です。点検を完了したものからチェックマーク☑を入れてください。
各工事完了後、工事責任者サイン欄にサインをしてください。

1. 据え付けの前に

工事責任者サイン

- 警告**
- 据付工事はこの据付点検要領書に従って確実に行ってください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をして据え付けに不備があると、水漏れ・感電・火災・室内ユニット落下によるケガの原因になります。
 - ユニットのの上に乗ったり、物を載せたりしないでください。落下によるケガの原因になります。

1-1 搬入について

- 1) できるだけ梱包のまま据付位置まで搬入してください。
- 2) 室内ユニットを平らに置いた際に上に物を載せないでください。
- 3) 開梱・搬入・据え付け時は製品を逆さにしたり傾けたりしないでください。内部の部品の破損・変形・故障の原因になります。

留意事項 製品のカバー表面には傷防止のために保護フィルムが貼り付けてありますので、据え付け時に保護フィルムをはがしてください。

1-2 付属品・現地準備品の確認

- 1) 下記部品が室内ユニット本体および梱包内部に付属されていますので、据え付けの前にご確認ください。

● 付属部品一覧表

	名称		個数	使用箇所	使用方法
室内ユニットに付属	ワッシャー (M10)		4	室内ユニット本体据付用	5ページ《工事要領》の項参照
	ダンネツ付きワッシャー (M10)		4		
	ドレンホース		1	ドレン配管接続用	7・8ページ「4. ドレン配管工事」の項参照
	ホースバンド		1	ドレンホース接続用	
	パッキン (5T × 270mm × 270mm)		1	ドレン配管断熱用	
	閉止キャップ		1	ドレン接続口ふさぎ	

多機能リモコン (PC-RKF) 1個 丸ワッシャー 9枚 防振ゴム 5個 水準器 1個

- 2) 室内ユニット本体の中には絶対に異物を入れないでください。据え付けの前に必ず異物の混入がないことを確認してください。

2. 据付場所の選定

工事責任者サイン

- 警告**
- 据え付けは室内ユニットの質量に十分耐える場所に確実に行ってください。強度不足や取り付けが不完全な場合は、室内ユニットの落下によるケガの原因になります。
 - 可燃性ガスの発生や流入などの恐れがある場所には据え付けしないでください。発火や火災の原因になります。

留意事項

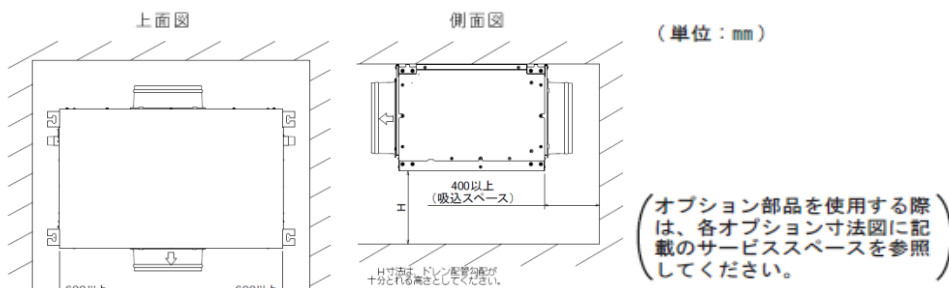
- 病院などの電磁波を発生する医療機器を使用される場所に据え付ける場合には、下記の点にご注意ください。
 - 電磁波放射器の発信面が直接室内ユニット本体の電気品箱に対向しない位置に据え付けてください。
 - ノイズの空中伝播の影響を避けるため、電磁波を発信する機器との距離は少なくとも3m以上離してください。
 - 室内ユニットの電源にノイズが発生している場合には、ノイズフィルターを取り付けるなどの処置が必要です。
- 油の飛沫や蒸気のたちこめる場所（例：調理場や機械工場など）への据え付けは避けてください。油が熱交換器に付着し、熱交換不良による霧の発生・合成樹脂部品の変形破損・熱交換器の腐食・断熱材のはく離などをひきおこすことがあります。
- 有機溶剤（シンナーやベンジン）の雰囲気のたちこめる場所（例：塗装場やクリーニング工場など）への据え付けは避けてください。合成樹脂部品が溶解破損します。
- 酸性またはアルカリ性雰囲気など一般の雰囲気と異なる場合には熱交換器などの腐食を起こしますので、耐食処理製品（受注対応品）を使用する必要があります。
- 飲食店や厨房などで使用される揚げ物の油脂類が熱交換器のフィンに多量に付着しますと、熱交換が悪くなり、霧を発生させることがあります。現状では、熱交換器のフィンに油脂類が付着しないよう、油脂類の吸着性のよいフィルドフィルターを使用することが最も効果的です。あらかじめ、このような場所に据え付けられるときにはフィルドフィルターを取り付けてください。
- 油や粉末などを直接吸い込む恐れがある場所への据え付けは避けてください。送風機などに油・粉末・粉塵などが付着すると、振動が大きくなり、機器を損傷する可能性があります。
- 可燃性ガスの発生・流入・滞留のおそれのある場所や、カーボン繊維の浮遊する場所への据え付けは避けてください。
- 温度を検知して作動する警報器や制御装置などにエアコンの吹出空気が直接当たるような位置に設置することは避けてください。警報器や制御装置などの誤動作の原因になります。

2. 据付場所の選定（つづき）

- 1) 据付面は丈夫であることを確認してください。室内ユニットの質量に耐える強度をもっていないと、騒音や振動が発生することがあります。
- 2) 室内ユニットの周囲には、機械の点検・保守が容易にできるように、下図に示すサービススペースを確保してください。ドレン配管・その他は機械の点検・保守の妨げにならないよう施工してください。また、サービススペースには可燃物を設置しないでください。天埋設置の場合は、点検口を必ず設けてください。
- 3) ドレン配管の水抜き勾配が取れる場所であることを確認してください。

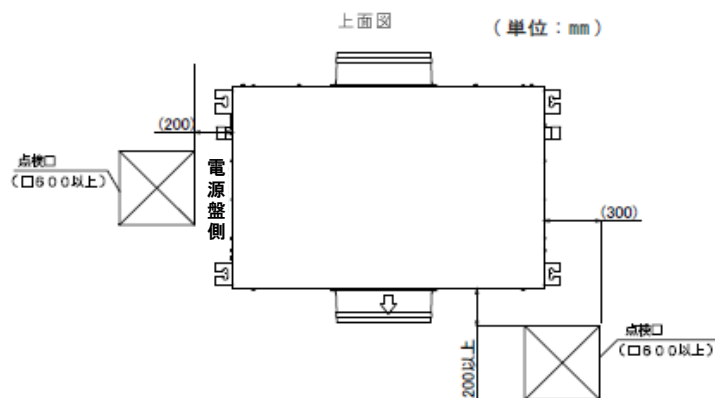
サービススペース

●室内ユニットの周囲には、空気吸込口や機械の点検・保守が容易にできるように、下図に示すサービススペースを確保してください。



点検口（天埋設置の場合）

- 天埋設置の場合、上記のサービススペースに加えて、下図に示す点検口を設けてください。点検口以外に製品下面に容易に外せる天井または開口可能部を設けてください。
- メンテナンス性確保のため、サービススペース（特に点検口からエアコン本体の間）に障害になるものを設置しないでください。



点検・保守のため電源盤側に必ず点検口を設けてください。

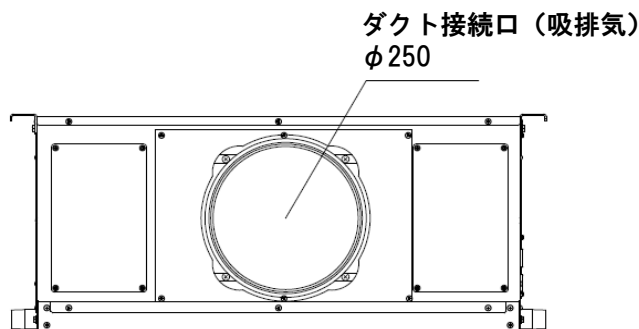
- 圧縮機や電子制御膨張弁などの冷凍サイクル部品を交換する場合には、ろう付け作業が必要です。天井板を容易に外せない場所では、室内ユニットを取り外すことができる開口可能部を室内ユニットの下面に設けてください。

3. 据付工事

工事責任者サイン

- 1) 吸排気ダクトはφ250を使用してください。
ダクト長は吸気、排気それぞれ15m以内としてください。
以下の数値を参考に施工してください。
例) ダクト長20m・・・風量12.0m³/min
ダクト長30m・・・風量11.3m³/min （当社測定値）

- 2) 機器本体にはフィルターがありません。
吸気ダクトのガラリにはフィルターを設置してください。



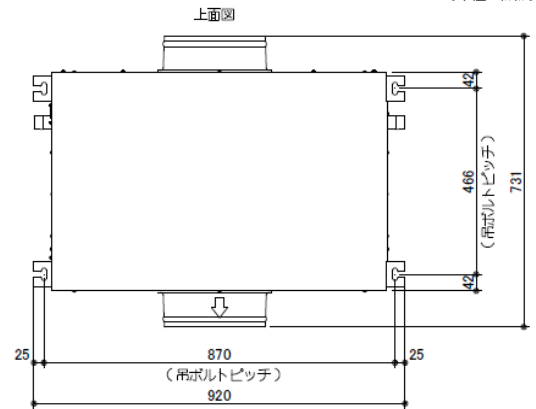
3. 据付工事

●天吊設置・天埋設置の場合

《吊りボルトの位置》

- 1) 配管・配線のサービス方向に注意して据付位置・方向を決定してください。
- 2) 室内ユニットの据付位置決定後、天井への穴開け、吊りボルトの設置を行ってください。取付穴位置の寸法は右図のとおりです。
- 3) 天井の処理:建物の構造により異なりますので、詳しくは建築業者・内装業者とご相談ください。
 - ① 天井の水平度を正しく保ち、天井板の振動を防ぐためには、必ず天井下地（骨組・野縁と野縁受け）の補強が必要です。また、吊りボルトには防振ハンガーまたは防振ゴムをお取付ください。
 - ② 点検口相当部分・天井下地を切断・撤去してください。（天埋設置時）
 - ③ 天井下地切断端の補強、および天井板の端固定用の天井下地を追加してください。（天埋設置時）
 - ④ 同一の天井下地材に蛍光灯を吊ると、蛍光灯が振動することがありますので、必ず天井下地材を分けて使用してください。

(単位: mm)



《吊りボルトの設置》

- 1) 吊り下げ箇所は強固な構造にしてください。また、ダクターなどを利用すると吊り下げが容易です。
- 2) 吊りボルトは耐震など必要に応じ、振れ止め用耐震支持部材にて補強を行ってください。吊りボルトと振れ止め用耐震支持部材はM10のものを使用してください。（現地準備）

木造・簡易鉄筋の場合	鉄筋の場合
<ul style="list-style-type: none"> ● 小屋梁（はり・平屋建て）または2階梁（2階建て）を強度メンバーとしてください。 ● 室内ユニット吊り下げには丈夫な角材を用いてください。 梁間が90cm以下の場合＝6cm角以上の角材 梁間が180cm以下の場合＝9cm角以上の角材	

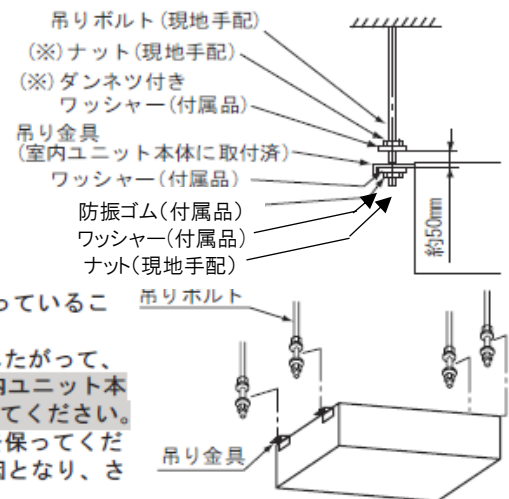
《工事要領》

□ 1) ナットの取り付け

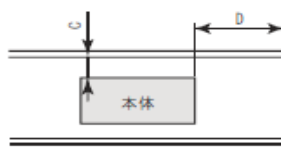
- 吊りボルトにはあらかじめ右図の位置にナットを付けておきます。なお、天吊設置の場合は、(※)部は不要です。
- ※ ワッシャーは吊りボルトが吊り金具から外れないようにするためです。必ず付属のワッシャーを取り付けてください。ダンネツ付きワッシャーは断熱材が下になるように取り付けてください。吊り込み作業のとき、ワッシャーを吊りボルトに保持することができます。

□ 2) 室内ユニット本体の吊り込み

- 室内ユニット本体のキャビネット下部に手をかけて室内ユニット本体を吊り込んでください。
 - 室内ユニット本体の吊り込みは吊り金具の切欠部に吊りボルトを挿入してください。その際、ワッシャーが吊り金具の立ち上がりでストッパーとなっていることを確認してください。
- (注)室内ユニット本体吊り下げ後に配管・配線接続作業が必要となります。したがって、据付場所選定後、配管引出方向を決定し、特に天井が既設の場合は、室内ユニット本体を吊り下げる前に配管・配線接続位置まで配管・配線工事を行っておいてください。室内ユニット本体と天井面を合わせるとき、室内ユニット本体の水平度を保ってください。水平度がでないとき、フロートスイッチの誤動作や不作動の原因となり、さらにドレンの排水ができなくなるため水落ちの原因となります。



- 3) 室内ユニットを設置するとき、防災上の問題から天井裏・壁面との距離は右図のような寸法を守ってください。

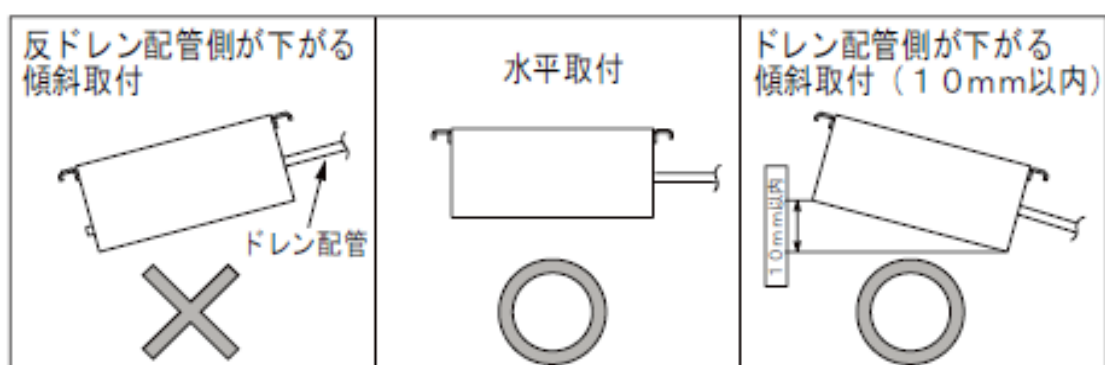
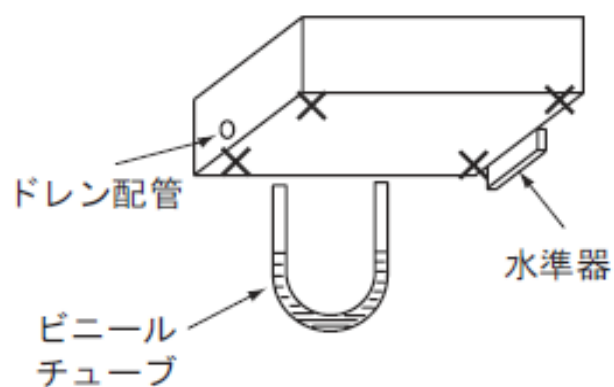


	壁・柱などの材質	
	可燃性	不燃性
C	100cm以上	10cm以上
D	60cm以上	5cm以上

3. 据付工事（つづき）

- 右図の×印4カ所の水平度を付属の水準器またはビニールチューブに水を入れて確認し、**必ず水平に吊り下げてください。**

水平に設置できていないとフロートスイッチの誤作動や水落ち、排水不良の原因になります。



室内ユニット傾斜について

4. ドレン配管工事

工事責任者サイン

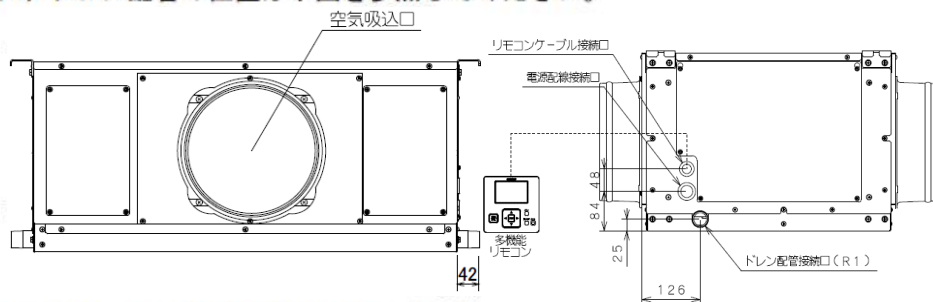
警告

● 室内ユニットドレン配管は、腐食性ガスなどの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有毒ガスが流入し、中毒などの原因となります。

注意

● ドレン配管は確実に排水するよう、配管してください。不確実な場合は、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。

□ 1) ドレン配管の位置は下図を参照してください。



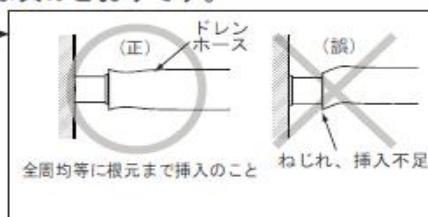
(単位: mm)

- (注1) ドレン配管は、左右側面のどちらからでも接続できます。
- (注2) ドレン配管への接続は、付属のドレンホースを使用し塩ビ管 (VP25) を接続してください。
なお、金属管を使用する場合は、テーパめねじまたは平行めねじを使用してください。

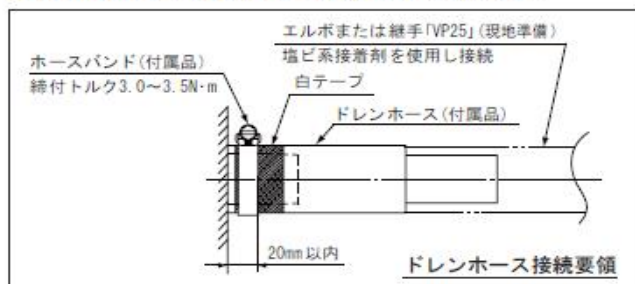
□ 2) ドレン配管接続口は両側ともゴム栓を取り付けています。ドレン配管を接続しない側は付属の閉止キャップを取り付けてください。閉止キャップは配管接続口にシールテープを巻き付けてから、水漏れしないように確実に締め付けてください。

□ 3) 室内ユニット本体ドレン配管接続口と付属ドレンホースの接続のしかたは次のとおりです。

- ① 室内ユニットのドレン配管接続口に付属ドレンホースを必ずまっすぐ根元まで挿入してください。根元まで挿入しなかったり、ねじれたままでは水漏れの原因となります。
- ② 付属ホースバンドを付属ドレンホースの白いテープが巻いてあるところで、端面から20mm以内の位置で締め付けてください。



ドレンホース差込方法



留意事項

ホースバンドは、ドレン配管接続口のねじ加工部で固定せず、必ず直管部で固定してください。

注意

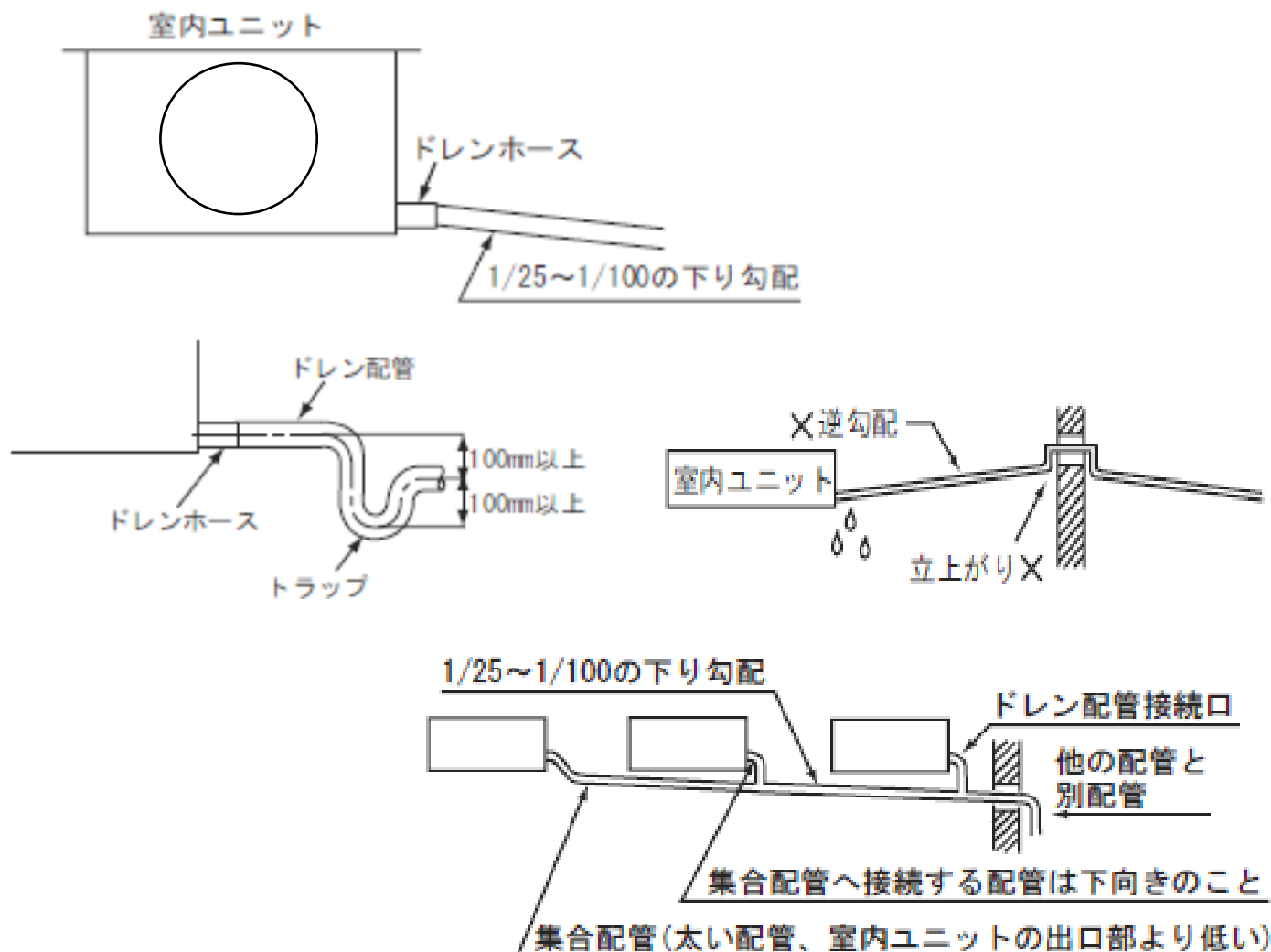
- 付属のドレンホースを曲げたり、ねじったりして使用しないでください。水漏れの原因になることがあります。
- ドレン配管接続口には過大な力を加えないでください。破損する原因になることがあります。

4. ドレン配管工事（つづき）

□ 4) 付属ドレンホースから先の現地工事ドレン配管

- ① 塩ビ管 VP25 を現地で準備し、塩ビ系接着剤を使用してドレンホースに塩ビ管を接続してください。
- ② 接着面の洗浄・接着剤塗布・管の挿入・保持・養生などは接着剤メーカーの資料により、確実に行ってください。
- ③ ドレン配管は 1/25 ～ 1/100 の下り勾配 を付けて施行してください。
- ④ ドレントラップは必ず施工してください。ドレントラップがないと、水飛びや室内ユニットからの漏水などにつながり、室内に空気を持ち込んだりします。
- ⑤ 複数台のドレン配管を集合配管とする場合、集合配管の位置は必ず本体のドレン出口部より低くなるようにしてください。また、集合配管の太さは集合した本体の台数分に見合うだけ太い配管（VP30（呼び径 30mm、外径 38mm）以上の太い配管）で施工してください。

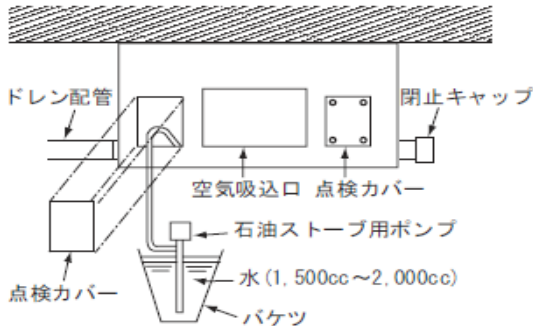
- 注意**
- ドレン配管は逆勾配（上り勾配）の部分や立ち上がり部を作らないでください。機械が停止したとき水が逆流し、水漏れの原因になることがあります。 **!**
 - ドレン配管は他の汚水・排水系統と直結しないで別配管にしてください。熱交換器の腐食や異臭の原因になることがあります。 **⊘**



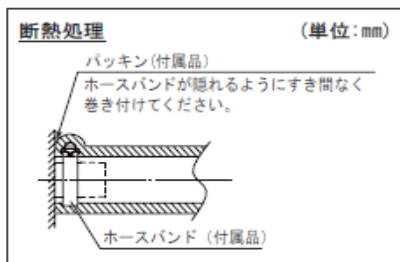
4. ドレン配管工事（つづき）

□ 5) 排水および水漏れ確認

- ① 空気吸込口側にある点検カバーを取り外します。
点検カバーはドレン配管接続側を取り外してください。
- ② 点検口から注水し、水が排出されているか、ドレン配管からの水もれがないかを確認してください。
- ③ 確認完了後、点検カバーを取り付けてください。



□ 6) ホースバンドの上から付属のパッキンを巻きます。この時、すき間のないようにドレンホース・ホースバンドに密着させて断熱処理してください。



□ 7) 室内を通るドレン配管には、必ず市販の断熱材を巻いてください。

□ 8) 金属のドレン配管を使用する場合には、次の事項を厳守してください。

- (1) ドレン配管には必ず保冷をしてください。
- (2) ドレン配管は下り勾配にしてください。
- (3) 付属ドレンホースは使用せず、ドレン配管接続口に直接ドレン配管を接続してください。
- (4) ドレントラップは必ず施工してください。ドレントラップがないと水飛びや室内ユニットからの漏水などにつながり、室内に臭気を持ち込んだりします。
- (5) 5) 項に従い、水漏れ確認を行ってください。

モーター・サーミスター・配線コネクターなどの電気品には水をかけないようにご注意ください。

5. 配線工事

工事責任者サイン

(本書はじめての「安全のために必ずお守りください」の項をよくお読みのうえ、工事を行ってください。)

- 電気工事をするには資格が必要です。資格のあるお店に依頼してください。ご自分で電気工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。 **!**
- 電気工事は「電気設備に関する技術基準」「内線規程 (JEAC 8001) (最新のもの)」およびこの据付点検要領書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。この据付点検要領書の記載と異なる据付工事をし、電源回路容量不足や施工不備があると、感電や火災の原因になります。 **!**
- 配線は所定のケーブルを使用してください。ケーブルの誤選定は感電や火災の原因になります。 **!**
- 電源配線は、より線を使用せず、単線を使用して確実に接続して固定してください。より線を使用したり、接続や固定が不安定な場合、故障や発熱・発火の原因になります。 **!**
- 電源配線は、途中で接続しないでください。接続部が過熱し、火災・感電の原因になります。 **!**
- 単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不足により故障や発熱・火災の原因になります。 **!**
- 端子台への配線接続後は、必ずケーブルランプおよびコードメで結束してください。また、配線は配線通し口内に確実に収納してください。実行しないと配線噛みにより発火事故の原因になります。 **!**
- 配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。 **!**
- 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。 **!**
- 漏電遮断器を必ず設置してください。法規「電気設備に関する技術基準を定める省令」により設置が定められています。設置しないと地絡により火災や感電の原因になります。 **!**
- 現地配線施工時は、ネズミなどの小動物に現地配線がかじられることのないよう配慮し施工してください。配線がかじられると火災の原因になります。 **!**
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しないでください。大きなヒューズや針金などを使用すると発熱の原因になります。 **!**
- アースの接続はリ接地工事 (電源電圧 300V 以下) により電気工事士の方が行ってください。室内ユニットのアースを取り付けないと、感電など思わぬ事故につながります。アース線はガス管・水道管・避雷針・電話のアース線などに接続しないでください。アースが不完全な場合は、感電の原因になります。 **!**
- 電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に切ってから行ってください。感電の原因になります。また、遠隔操作や停電自動復帰運転により「運転」スイッチを押さなくても運転することがあるため、電源を切らずにカバーを開けていた場合は、ファンの回転などによりケガの原因になります。 **!**
- サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみ込まないように注意してください。感電や火災の原因になります。 **!**
- プリント基板のスイッチを操作する場合は、他の電気品に絶対触れないでください。感電の原因になります。 **!**
- サービスコネクターを取り扱う際には、必ず電源を切ってから作業を行ってください。感電の原因になります。 **!**
- 残留電圧で感電する恐れがあります。
 - 電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。
 - 電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。**!**

- 注意**
- 除湿機の電源を、大量の電力を使用する機器 (リフト・コンテナクレーン・電鉄用整流器・インバーター電源装置・アーク炉・電気炉・大型の誘導電動機・大型の開閉器など) と同一の電源トランスから配電する場合や大量の電力を使用する機器の電源線と除湿機の電源線同士が近接している場合は、機器の消費電力の急激な変動や、開閉器の作動により、極稀に除湿機の電源線に誘導サージ電圧が発生し、除湿機が正常に運転されない場合が発生する恐れがあります。事前に現地での電源状況を把握され、当該の恐れのある場合は、除湿機に接続する電源線へのサージの重畳を防止 (電源線の接続元の変更・配線引回し方法の見直し・サージ抑制機器の取り付けなど) してください。 **!**

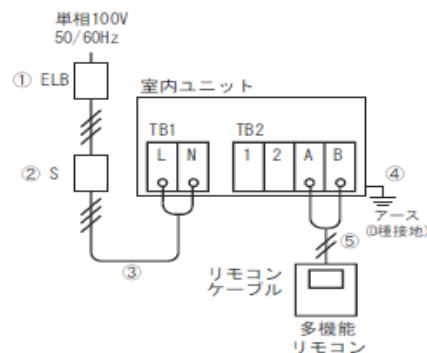
5-1 配線容量

□ 1) 室内ユニットに電源配線工事が必要です。配線は下表の配線を使用してください。

□ 2) 配線による電圧降下は標準電圧の 2% 以下としてください。

電源配線容量

項目	ELB (漏電遮断器)			S (手元開閉器)		電源配線		リモコン配線
	定格電流 [A]	定格感度電流 [mA]	動作時間 [SEC]	スイッチ容量 [A]	ヒューズ容量 [A]	単線の直径 [mm]	アース線 [mm ²]	
型式	①			②		③	④	⑤
08CV-Y2	20	30	0.1 以下	30	20	1.6	2	0.75



(注1) 配線容量は除湿機の使用範囲を考慮して、内線規程により決めたものです。

配線の電圧降下は幹線や分岐回路合わせて標準電圧の2%以下にしてください。

(注2) ELBは高調波対応品 (インバーター対応型) の高速形 (動作時間0.1秒以内) を選定してください。

(注3) 動力配線や制御回路などの制御配線は150mm以上離してください。

(注4) 電源トランス容量は定格再熱除濕運転時の1.5倍以上を見込んで選定してください。(本機はインバーターを搭載し除濕負荷に応じて運転容量を増減させるため、最大消費電力は定格消費電力を上回ります。)

(注5) 供給電源電圧は下記を満足するような受電設備としてください。

① 供給電圧: 定格電圧±10%以内

② 始動電圧: 定格電圧-15%以内

③ 運転電圧: 定格電圧±10%以内

5. 配線工事（つづき）

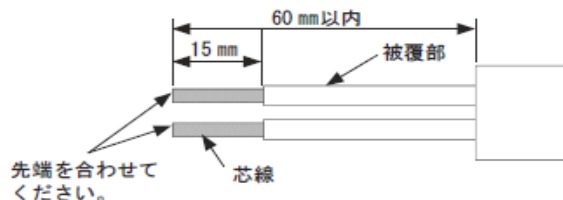
5-2 配線接続位置

警告

- 配線の端子は規定トルクにて確実に締め付けてください。端子の締め付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱・感電・火災の原因になります。 !
- 端子接続部にケーブルの外力が伝わらないようにケーブルを確実に固定してください。固定が不完全な場合は、発熱や火災の原因になります。 !
- 単線の芯線は、規定長をむき出し、端子台に芯線が隠れるまで確実に押し込んでください。挿入が不十分であったり、むき出し長が異なると接触不足により故障や発熱・火災の原因になります。 !

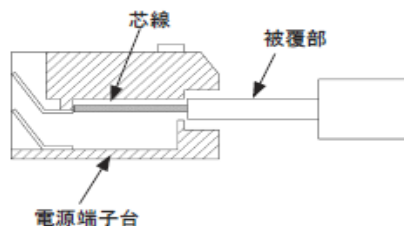
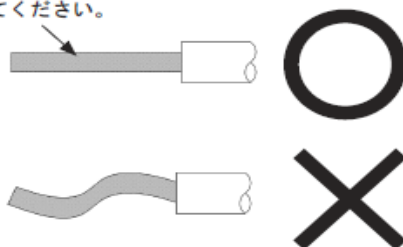
□ 1) 電源配線を下図のとおり結線してください。

- ① 単線の芯線は、下図の寸法でむき出し、芯線の先端を合わせ、まっすぐにしてください。



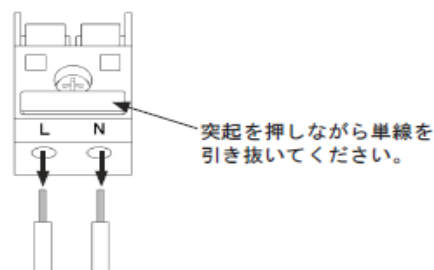
- ② むき出し部の芯線を電源端子台に被覆部が見えなくなるまで、まっすぐ差してください。

むき出し部の芯線の先端はまっすぐにしてください。

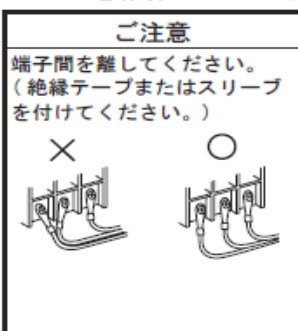
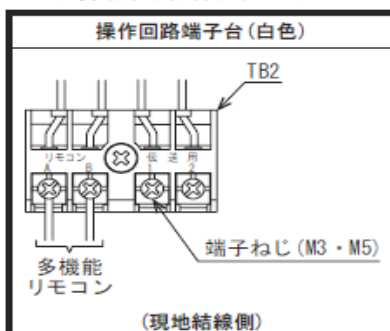


- ③ おのこの単線を引っ張って抜けないことを確認してください。

注意事項 端子台から単線を外す場合は、端子台上面の突起を押しながら単線を引き抜いてください。



□ 2) 操作回路端子台にリモコンケーブルを結線してください。



注) リモコンは[型式: PC-RKF]を使用してください。

締め付トルク

ねじサイズ	締め付トルク (N・m)
操作回路端子台 (TB2): M3.5	0.8 ~ 1.0

- (注) 1. 電源電圧は定格電圧を守っていますか。電圧が高すぎても低すぎても機械に悪い影響を及ぼします。
 2. 電源の容量は十分ですか。電源容量が不足していると始動時に大幅な電圧低下を生じて始動できない場合があります。
 3. 室内ユニットのアースを取り付けしないと感電など思わぬ事故につながりますので、必ずアースを取り付けてください。接地は、電源電圧300V以下の場合で接地抵抗100Ω以下のD種接地でなければなりません。接地工事は電気工事士の方が行ってください。
 4. 感電事故を防止するため、電気配線作業や点検などでサービスカバーを開けるときは、電源を完全に切ってから行ってください。
 5. 供給電圧は100Vですが、12Vなどの弱電異電圧回路が混在します。耐電圧などは電圧にご注意のうえ、実施してください。

警告 サービスカバーを取り付ける際は、電気配線がかみこまないように注意してください。感電や火災の原因になります。 !

5. 配線工事（つづき）

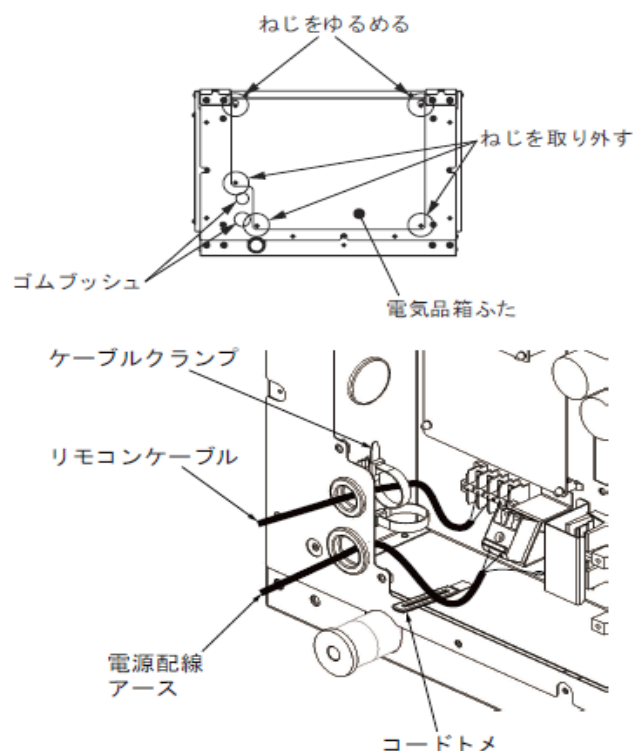
5-3 配線接続口

□1) 室内ユニットの配線接続口を右図に示します。

- 電気品箱ふたを取り外します。
電気品箱ふたを固定しているねじ（下側2本、中央1本）を取り外し、ねじ（上側2本）をゆるめて、ふたを下にずらして取り外してください。
- ゴムブッシュに切り込みを入れ、右図のとおりリモコンケーブルと電源配線を通してください。
- 配線を端子台に接続してください。
- 電源配線は電源端子台下方にあるコードトメで固定し、リモコンケーブルはケーブルクランプで固定してください。その際、配線は、サービス時の作業性を考慮して引っ張りすぎないよう余裕を持たせて、確実に固定してください。
- 電気品箱ふたを取り付けてください。

留意事項

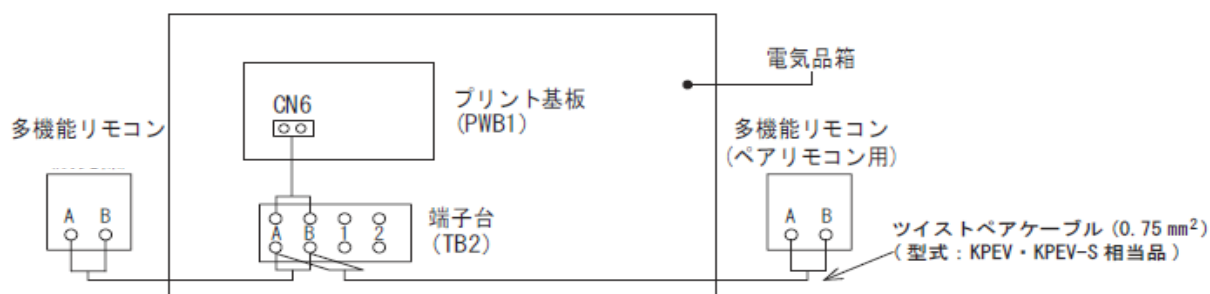
電気品箱ふたの落下に注意して作業を行ってください。



5-4 ペアリモコンとの接続について

ペアリモコン機能を使用する場合は、多機能リモコン（型式：PC-RKF）をもう1台準備し、多機能リモコンに付属の据付点検要領書をよくお読みのうえ、下記のとおり結線してください。

<結線図>



- (注) 1. リモコンの総配線長は、200m 以下としてください。総配線長 30m 以下の場合は、ツイストペアケーブル以外の配線 (0.5mm²) でも構いません。
2. 多機能リモコン (型式：PC-RKF) 以外のコントローラーは使用できません。

□ はチェック用です。点検を完了したものからチェックマークを入れてください。

リモコン据付工事

□ 下記部品が梱包されていますので、据え付け前にご確認願います。

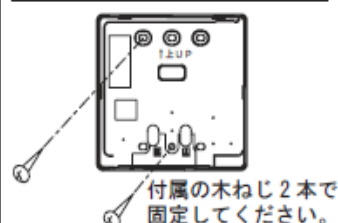
多機能リモコン ……1 木ねじ (M4 × 20 mm) ……2 取扱説明書 ……1

□ 多機能リモコンや他のコントローラーを縦方向に並べて据え付ける場合は、上下の取付間隔を 50 mm 程度開けてください。

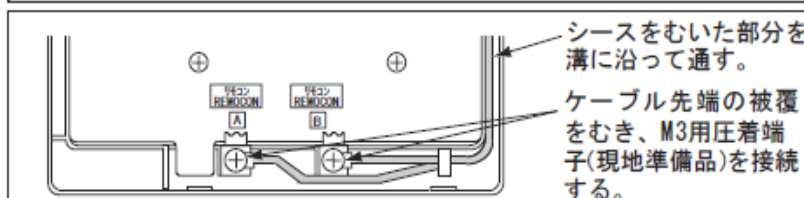
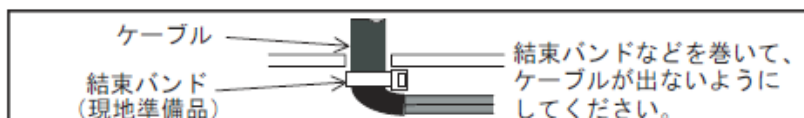
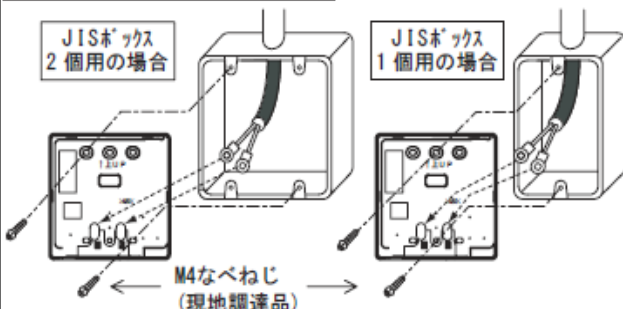
【据付要領】

□ 1) 取付ベースの固定方法
およびケーブルの処理

A. ケーブル露出の場合

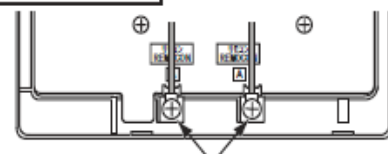


B. ケーブル埋込の場合

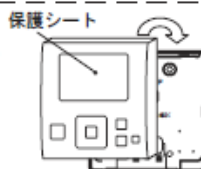


使用可能な JIS ボックス

- スイッチボックス 1 個用
(カバーなし / カバー付き)
- スイッチボックス 2 個用
(カバーなし / カバー付き)
- アウトレットボックス 中型
四角塗代付き (カバー付き)



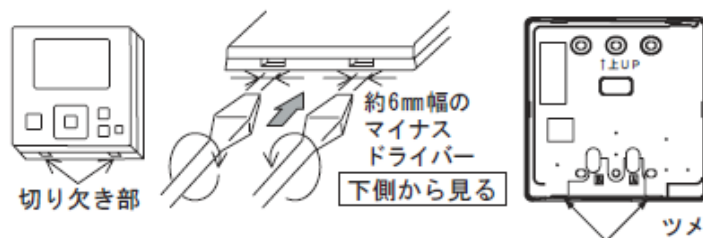
- 2) 取付ベースに本体をはめ込みます。先に上側から
はめ込んでください。また、はめ込み時にはケー
ブルをはさみこまないようにご注意ください。
- 3) 液晶表示部に貼ってある保護シートをはがして
ください。



注) 多機能リモコンを使用する場合の配線はツイストペア線(型式KPEV・KPEV-S相当品)を使用してください。

カバーの外し方

本体と取付ベースを分離します。取り外し方はケース下側の
2 カ所の切り欠き部にマイナスドライバーなどを押しつけな
がら回転させて外します。切り欠き部の近くにあるツメ部に
マイナスドライバーを差し込むとツメが破損し、本体が取り
付けできなくなりますのでご注意ください。



6. 試運転

工事責任者サイン

6-1 試運転の前に

試運転準備が完了するまで、製品の運転は絶対に行わないでください。

⚠警告

- 残留電圧で感電する恐れがあります。
- 電気部品の点検を始める前に、必ずすべての電源を遮断してください。
- 電源遮断後は必ず放電していることを確認してください。



試運転上のご注意について

- (1) 機械の外観および内部に輸送中または据付作業中に損傷を与えていないか点検してください。とくに、電気配線のねじ部は入念に点検する必要があります。
- (2) 電気部品端子と大地間を DC500V 絶縁抵抗計で測って 1M Ω 以上あることを確認してください。1M Ω 未満の場合は **絶縁抵抗について** に従い確認してください。弱電回路部に絶縁抵抗計をかけないでください。

絶縁抵抗について

電気部品端子と大地間を DC500V 絶縁抵抗計で測って 1M Ω 未満の場合は以下に従い確認してください。

①試運転時や長時間元電源を切った状態で放置された場合、圧縮機内に冷媒が溜まり込み絶縁低下する場合があります。絶縁抵抗が 1M Ω 未満まで低下したり漏電遮断器が作動する場合は以下の内容を確認してください。

確認内容

- 圧縮機の配線を外した状態で、圧縮機単体の絶縁抵抗を測定してください。圧縮機単体で 1M Ω 以上の場合は、その他の電気充電部の絶縁不良が考えられます。
 - 圧縮機の絶縁抵抗が 1M Ω 未満の場合は、まず圧縮機の配線をインバーター基板から外した状態で、元電源を投入し通電した後、再度絶縁抵抗を測定し、絶縁抵抗が復帰すれば圧縮機に問題はありません。
復帰しない場合は圧縮機の故障が考えられます。(空気条件・配管長や冷媒の状態により、さらに通電時間が必要な場合があります。)
注) 取り外した圧縮機配線を再接続する際は、差込端子のゆるみが出ないように、ラジオペンチなどで端子をカシメ直して取り付けてください。
- ②漏電遮断器が作動する場合は、漏電遮断器の選定容量も併せて確認してください。選定容量は、9 ページの配線容量表を参照してください。
なお、漏電遮断器 (ELB) はインバーター対応型とし、定格感度電流が 30mA 以下のものは高感度高速形(動作時間 0.1 秒以内)を選定してください。

多機能リモコンなどの名称

多機能リモコンの働きや名称については多機能リモコンに付属の取扱説明書に従ってください。

なお、多機能リモコンは指以外で操作しないでください。

6-2 ディップスイッチの設定について

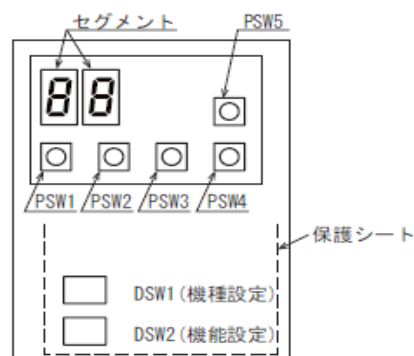
室内プリント基板上のディップスイッチの設定は必ず**室内ユニットの電源がオフの状態で行ってください。**

室内電源をオンのままで操作しても設定内容は無効となります。

- 1) 室内プリント基板上のディップスイッチの取付位置を右図に示します。
- 2) ディップスイッチの出荷時の設定
(■がスイッチの位置を示します。)

PWS1					
DSW1			DSW2		
ON	■	■	ON	■	■
OFF	□	□	OFF	■	■

室内プリント基板



留意事項

- 室内プリント基板には、絶縁用の保護シートが取り付けられています。この保護シートを引っ張ったり、取り外したりしないでください。

6. 試運転（つづき）

6-3 多機能リモコンの設定について（室内ユニット）

機能選択は、試運転メニューより設定できます。

- ① 通常モード中（エアコン停止中）に『メニュー』スイッチと『戻る / ガイド』スイッチを同時に3秒以上押すと試運転メニューを表示します。

試運転メニュー	
試運転	▲
機能選択	01
サーモ選択	/
入出力	03
昇降グリル入出力設定	▼
◀選択	決定 決定 戻る 戻る

- ② 試運転メニューで **機能選択** を選択して『決定』スイッチを押します。

機能選択			
すべて			
00-01			
01-02			
◀選択	決定 決定	戻る 戻る	

- ③ 『△』『▽』『◀』『▶』スイッチを押して、設定対象の多機能リモコンを選択して『決定』スイッチを押します。
多機能リモコンに接続している室内ユニットが1台の場合は表示しません。（④を表示します。）

機能選択の場合

④ 『△』『▽』スイッチを押して設定する項目を選択します。

機能選択:すべて	
項目	設定
b1	◀ 00 ▶
b2	00
b3	00
b4	00
b5	00
◀選択 ▶調節 節電 文字 決定 決定 戻る 戻る	

(注) 『パワフル』スイッチを押すと、項目・設定を漢字・仮名で表示します。機能詳細は次ページの「●機能選択設定項目」を参照してください。

⑤ 『△』『▽』スイッチを押すと設定内容が変化します。

機能選択:01-03	
項目	設定
b1	00
b2	00
b3	◀ 00 ▶
b4	00
b5	00
◀選択 ▶調節 節電 文字 決定 決定 戻る 戻る	

- ⑥ 設定を確定する場合『決定』スイッチを押すと確認画面を表示します。

機能選択:すべて	
機能選択の設定を確定します。 よろしいですか？	
はい	いいえ
◀選択	決定 決定 戻る 戻る

- ⑦ **はい** を選択して『決定』スイッチを押すと設定を確定して、①の試運転メニューを表示します。
いいえ を選択した場合、④に戻ります。

- ⑧ 試運転メニューで『戻る / ガイド』スイッチを押すと通常モードに戻ります。

（機能選択の場合を示します。）

6. 試運転（つづき）

●機能選択設定項目

設定項目	名 称	設定内容	設定	設定項目	名 称	設定内容	設定
F1	予備	—		od	予備	—	
F2	停電後動作	復電後の動作を設定します。 00：無効 01：有効（復電後、停電前の状態で再運転）		oE	サーモオフ湿度	圧縮機の停止デファレンシャル湿度を設定します。 -5：-5% -3：-3% -2：-2% -1：-1% 00：デファレンシャル無	
F3	遠方発停	遠方発停の種類を設定します。 （コネクタ（CN7）1-2番） 00：レベル信号 01：パルス信号		oF	サーモオフ温度	本機能の設定はありません。	
F4 (※)	外部入力信号選択	本機能の設定はありません。		oG	予備	本機能の設定はありません。	
F5	ファン残留運転	運転停止後の室内送風機運転動作を設定します。 00：無効（運転停止後、室内送風機も停止） 01：有効（運転停止後、室内送風機は30秒間運転を継続し、停止）		oH (※)	排熱抑制範囲上	本機能の設定はありません。	
F6	異常時ファン停止	「F19」「F38」以外のアラームが発生した場合の室内送風機の動作を設定します。 00：運転（室内送風機は運転継続） 01：停止（室内送風機は運転停止）		oJ (※)	排熱抑制範囲下	本機能の設定はありません。	
F7	予備	—		b5	運転モード固定	運転モードを固定します。 00：無効 01：有効（操作ができません）	
F8	サーモオン湿度	圧縮機の運転デファレンシャル湿度を設定します。 05：5% 06：6% 07：7% 08：8% 09：9% 10：10%		b6 (※)	設定温度固定	本機能の設定はありません。	
F9 (※)	サーモオン温度	本機能の設定はありません。		b7	設定湿度固定	設定湿度を固定します。 00：無効 01：有効（操作ができません）	
FA	除霜周期	除霜周期を設定します。 15：15分 20：20分 25：25分 30：30分 35：35分 40：40分 45：45分 50：50分 55：55分 60：60分		b9	風量固定	設定風量を固定します。 00：無効 01：有効（操作ができません）	
Fb	除霜時間	除霜時間を設定します。 05：5分 10：10分 15：15分 20：20分 25：25分 30：30分		G0	予備	—	
o1	検知温度補正	室内ユニットの温湿度センサーで検知する湿度の補正を設定します。 -5：-5% -4：-4% -3：-3% -1：-1% 00：無効（補正なし） 01：1% 02：2% 03：3% 04：4% 05：5%		G1	切タイマー自動設定	切タイマーの時間を設定します。 00：無効 01～24：1～24時間設定（1時間毎） 0A：30分 0B：90分 0C：40分 0D：45分 0E：50分 0F：55分	
o2 (※)	検知温度補正	本機能の設定はありません。		G2	リモコン親子設定	リモコンの親子設定を行ないます。 00：親 01：子	
o3	予備	—		G3	リモコン停止遅延	「運転/停止」を3秒以上押した場合にユニットの運転/停止を行ないます。 00：無効 01：有効	
o4	インバーター制御切替	運転中の圧縮機制御を選択します。 00：運転周波数自動 01：運転周波数固定（周波数はo5で設定します）		G4	操作ロック/運転モード	操作ロック設定時に運転モードを固定します。 00：無効 01：有効（操作ロック時、操作ができません）	
o5	運転周波数固定 (※※)	「o4-01」設定または湿度設定「連続」の時の圧縮機運転周波数を設定します。 35：35Hz 40：40Hz 45：45Hz 50：50Hz 55：55Hz 60：60Hz 65：65Hz 70：70Hz 75：75Hz 80：80Hz 85：85Hz 90：90Hz 95：95Hz 00：100Hz		G5	操作ロック/設定温度	本機能の設定はありません。	
o6	フィルターサイン時間変更	フィルターサイン時間を設定します。 00：表示なし 01：1200時間 02：2500時間		G6	操作ロック/風量	操作ロック固定時に風量を固定します。 00：無効 01：有効（操作ロック時、操作ができません）	
o7	外部ヒューミ信号入力	室内ユニットの吸込湿度センサーの代わりに圧縮機の運転停止、運転モード切替を外部ヒューミ信号（レベル信号）により制御します。 00：無効（吸込湿度センサーにより制御） 01：有効（外部ヒューミ信号（レベル信号）により制御します。）		G7	操作ロック/設定湿度	操作ロック設定時に設定湿度を固定します。 00：無効 01：有効（操作ロック時、操作ができません）	
o8 (※)	外部サーモ信号入力	本機能の設定はありません。		G8	予備	—	
o9	サーモオン信号出力	圧縮機の運転中DC12Vを出力します。（コネクタ（CN20）1-2番） 00：無効（出力しません） 01：有効（出力します）		J3	運転ランプ色	運転ランプ色を選択します。 00：緑 01：赤	
oA	外部出力信号選択	コネクタ（CN20）1-3番の出力信号を選択します。 00：パワフル除湿 01：除霜		J5	連絡先表示	連絡先表示の有無を設定します。（ガイド機能） 00：有効（連絡先を表示します） 01：無効（連絡先を表示しません）	
oB	セルフデマンド機能	セルフデマンド機能を設定します。 00：無効 01：有効		JA	簡易点検表示	簡易点検表示の有無を設定します。（メニュー機能） 00：無効（簡易点検表示をしません） 01：有効（簡易点検表示をします）	
oC	ウェーブ機能	ウェーブ機能を設定します。 00：無効 01：有効		L7	予備	—	
				P4	センサー温湿度表示	室内ユニットの温湿度センサーで検知した温湿度を表示します。 00：無効（表示をしません） 01：有効（表示をします）	
				P6	パワフルボタン操作	パワフルボタン機能の有無を設定します。 00：有効 01：無効	
				P7	メニュー画面遷移禁止	メニューボタン機能の禁止を設定します。 00：無効（メニュー機能を使用できます） 01：有効（メニュー機能を使用できません）	
				P8	機能日本語表示	機能選択時における日本語表示機能の有無を設定します。 00：有効（パワフルボタンで日本語表示します） 01：無効（日本語表示しません）	
				P9	アラーム日本語表示	アラーム時における日本語表示機能の有無を設定します。 00：有効（日本語表示します） 01：無効（日本語表示しません）	

(※) 部の項目は機能がありませんので設定変更しないでください。

(※※) 圧縮機の使用周波数範囲は機種によって異なりますので、設定した周波数で運転しない場合があります。

なお、設定値が使用周波数範囲外の場合は、使用周波数の上限または下限で運転します。

留意事項

- 設定の変更は、電源投入から3分以上経過後に行ってください。
- 接続構成を変更した場合は、各機能選択の設定内容を確認してください。
- 表内の設定欄に、各機能選択の設定内容を記入してください。
- 上記表中の「予備」の項目は設定変更しないでください。（00のままにしてください。）誤って設定すると保護装置不動作など除湿機が故障する恐れがあります。

6. 試運転（つづき）

6-4 試運転

据え付けが完了しましたら、試運転をしてお客様に引き渡してください。

□ 1) 試運転は下記手順で行います。異常なく運転することを確認してください。

多機能リモコンの場合

① 多機能リモコンの『メニュー』スイッチと『戻る / ガイド』スイッチを同時に 3 秒以上押し続けると試運転メニューを表示します。

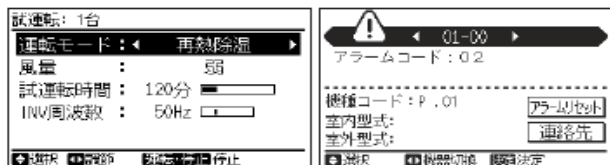
- **試運転** を選択して試運転画面を表示します。
- 接続した室内ユニットの総台数が、液晶部に表示されます。
- 正しい台数以外の表示が出る場合は接続不良、またはノイズなどにより接続確認が正常に行われていません。一度電源を切り、次の箇所を点検して、正しい結線にしてください。(元電源のオン/ オフは短時間(10 秒以内)に繰り返さないでください。
 - (a) 室内ユニットの電源入れ忘れ、または電源配線不良
 - (b) 室内ユニット間ケーブル、またはリモコンケーブルの接続不良
 - (c) ディップスイッチ設定または号機設定(13 ページ) 誤り
- 『運転 / 停止』スイッチを押すと試運転を開始します。
- 『△』『▽』『◀』『▶』スイッチを押して、各項目を設定してください。

② 『運転 / 停止』スイッチを押す。

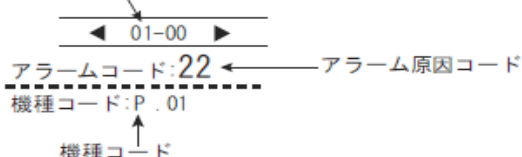
運転ランプが点灯し、試運転を開始します。この時、自動的に 2 時間の切タイマーがセットされ「試運転時間 : 120 分」と表示されます。

③ 試運転は湿度調節器を無効とし、連続運転を行います保護装置は有効です。

④ 再度『運転 / 停止』スイッチを押すか、試運転時間が経過すると試運転は終了します。試運転時間の変更は、『△』または『▽』スイッチを押し、試運転時間設定にして『◀』『▶』スイッチで時間を設定してください。(30 ~ 600 分)



異常が発生した室内ユニットの号機

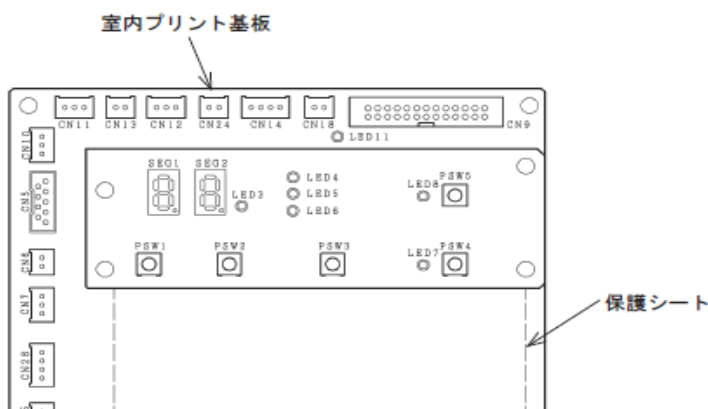


試運転中に保護装置作動などの異常が発生した場合、多機能リモコンの運転ランプが点滅し、左図のようにアラームコードが表示されると同時に、機種コードが表示されます。また、運転ランプが 2 秒 / 2 秒の点滅をした場合は、室内ユニット-多機能リモコン間の伝送異常（コネクター部ゆるみ・外れ・断線・誤結線など）です。このような時は次ページの《アラーム（異常）コードおよび原因表》で原因を確かめて処置してください。なお、処置できない場合は、専門のサービスマンにご相談ください。

室内プリント基板からのサービス運転

室内プリント基板からの運転要領を示します。

- ① 電源を投入すると、室内プリント基板のセグメント (SEG1・SEG2) に「—」を表示して接続確認を行った後、セグメントに設定湿度が表示されます。
- ② 室内プリント基板のプッシュスイッチ (PSW4) を押すと、LED7 (緑色) が点灯し、運転を開始します。運転状態は、セグメントに表示され、設定風量は LED4 ~ 6 に表示されます。
- ③ 運転中にプッシュスイッチ (PSW4) を押すと LED7 が消灯し運転を停止します。
 - セグメントの表示
 - 通常時: 設定湿度
 - 除霜時: dF
 - 異常時: アラームコード (点滅表示)
 - 風量の表示
 - LED5 と LED6 が点灯: 強風
 - LED6 が点灯: 弱風



留意事項

- 運転モード・風量・湿度の設定は多機能リモコンの設定に従いますので、設定変更が必要な場合は、多機能リモコンから設定を行ってください。
- 室内プリント基板から運転機能は、ユニット点検などの一時的な確認の時のみ使用し、最終確認のための試運転は必ず多機能リモコンから行ってください。

6. 試運転（つづき）

《アラーム（異常）コードおよび原因表》

アラーム コード	異常内容	作動機器と作動設定値・原因
01	フロートスイッチ作動	水位の異常高水位・フロートスイッチの故障
02	保護装置作動〔高圧カット〕	高圧遮断装置 (R410A:4.15MPa)
03	リモコンー制御基板間伝送異常	多機能リモコン・制御基板間配線の端子部ゆるみ・断線・誤配線
04	インバーター基板ー制御基板間伝送異常	インバーター基板・制御基板間伝送不良
06	インバーター電圧異常	インバーター電圧低下
07	吐出ガススーパーヒート低下異常	冷媒過多・膨張弁閉ロック・異常着霜
08	圧縮機上部温度過昇異常	冷媒不足・冷媒抜け・膨張弁閉ロック
11	吸込空気用サーミスター異常	サーミスター（センサー）配線誤結線・未結線・断線・ショート
13	蒸発器出口サーミスター異常	
15	吸込空気用湿度センサー異常	
19	送風機保護装置作動	室内ファンモーター過電流・ロック・インターナルサーモ故障
20	圧縮機上部用サーミスター異常	サーミスター（センサー）配線誤結線・未結線・断線・ショート
21	高圧圧力センサー異常	
29	低圧圧力センサー異常	
35	機種設定誤り	誤設定
38	保護検出回路異常	室内ユニット保護装置異常
39	運転電流異常	過負荷運転・圧縮機異常・電流センサー異常
45	高圧圧力上昇防止保護作動	過負荷運転・冷媒過多・冷媒配管つまり・不凝縮ガス混入
47	低圧圧力低下防止保護作動	冷媒不足・冷媒抜け・膨張弁閉ロック
48	インバーター過電流保護作動	過負荷運転・圧縮機異常
53	インバーターモジュール保護作動	インバーター異常（過負荷・回転異常・起動失敗）
54	インバーターフィン温度上昇保護作動	フィンサーミスター異常・過負荷運転
55	インバーター不動作	インバーター故障
EE	圧縮機保護アラーム 〔多機能リモコンによるリセット不可〕	6時間以内に圧縮機にダメージを与えるアラームが3回発生

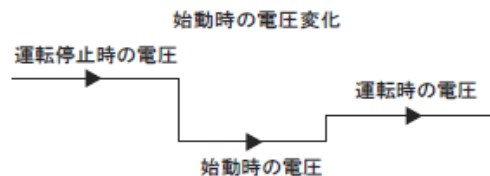
6. 試運転（つづき）

□ 3) 試運転時の点検

試運転時に下記のチェックをしてください。

- (1) 送風機の点検
室内および室外送風機が正しい方向に回転し、風が出ていることを確認してください。
- (2) 電源電圧の点検

電源電圧を調査して線間電圧のアンバランスや電圧値の異常があるときは電力会社に相談し、適切な処置をしてください。一般に始動時には右上図に示すように一度電圧は降下してから回復します。この始動時の電圧が本機の端子台において定格電圧-15%以下になったり、また、平常運転時に定格電圧±10%を超えていますと、機器故障の原因となりますのでご注意ください。



6-5 引き渡し

□ 1) 引き渡し時の指導

試運転を完了して製品を引き渡す際、運転の要領や定期的な保守の仕方について、取扱説明書によりお客様に十分説明し、指導してください。

除霜運転を行うことがあります。これは室温が低いときに室内熱交換器に霜が付くため、定期的に霜取りをしているためであり、一時的に圧縮機が停止しますが故障ではありません。

□ 2) 最後に保証書と取扱説明書を渡してください。

留意事項	試運転準備が完全に完了するまでは電気配線確認などのために除湿機は絶対に運転しないでください。
-------------	--

以上で日立除湿機の据え付けは完了ですが、この据付点検要領書はお客様に引き渡して保存するよう説明してください。

「取扱説明書」ならびに「漏えい点検記録簿」をお客様に渡し、保管を依頼してください。

- 本製品を所有するお客様には、製品性能の維持、また、冷媒フロン類を適切に管理するため、「フロン排出抑制法」に基づき、冷媒漏えいに係る簡易点検・定期点検を実施いただく必要があります。その案内を「取扱説明書」に記載しているため、必ずお客様にお渡しください。
- 「フロン排出抑制法」に基づき

1) 気密試験の結果、2) 追加充填を含む全冷媒量、3) 漏えい検査の結果を、室内ユニットの取扱説明書に同梱された「漏えい点検記録簿」に記載したうえで、お客様に必ずお渡しください。

問い合わせ先

株式会社 エコプラ

〒359-0007

埼玉県所沢市北岩岡161-6

TEL 04-2943-7303 FAX 04-2943-7305